

「研究業績目録」の作成要項について

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌^{*1}、(b) 紀要^{*2}、(c) プロシーディング、E. その他^{*3}、F. 報告書・事業報告書等^{*4}、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表^{*5}、I. 国内学会発表^{*5}、J. 外部資金の獲得状況の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り返してください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度(日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度)にしてください。

*1: 学会誌、国際誌等を年代順に記載する。

*2: 試験場報告、研究所報告等を含む。

*3: 商業雑誌、資料等を記載する。

*4: 調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。

*5: 最近5ヵ年について記載する(教授選考の場合は不要)。

*6: 英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。

1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)

*7: 学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。

*8: 論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数は**ボールド**(太字)とする。

*9: Journal は略記する。

*10: 発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

記載例

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)
農学について. 出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)
岩手の農業 (大学太郎, 学部一郎編), 堂, 盛岡, pp.10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)
アメリカの農業 (A.B.Carter 著, 大学太郎監訳), 社, 東京, pp.20-30.
4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agricultural Sciences (Eds.: D. E. F. Green and H.I. James), Bio Press, London, pp.20-30.

(注) 執筆した表題等は表記する必要はありません。

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
XYZに関する研究. [学修士または修士 (学) 大学]
2. 岩手一郎 (1983)
ABCに関する研究. [学博士または博士 (学) 大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 3: 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15: 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)

岩手の野生動物に関する研究．日動学誌 5：15-20.

2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J Anim. Sci. 20：100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25：15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について．岩手大農報 17：30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)
北上山系におけるニホンカモシカの生態調査．野性動物 125：pp.35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)
イヌワシのPCB汚染．自然動物調査報告(県), pp.10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)
イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567号

H. 国際学会発表(最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)
Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表(最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)
岩手の野性動物．第100回日本野生動物学会講演要旨：25-26.

J. 外部資金の獲得状況

1. 平成17年度 科学研究費補助金(基盤研究(A)研究代表者)
2. 平成15年度～ 財団奨励研究費(分担)